



1898年から1908年にわたり4度も全米オープンが開催された名門コース。難度の高いホールが続く。



狩猟クラブからはじった同クラブでは、豊かな自然の中で今でもハンティングがおこなわれている。

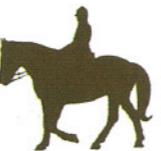


カントリークラブは、単にゴルフ場という意味ではない。
様々なスポーツを楽しむためにつくられた会員制のクラブおよびその施設だ。
そして日本でも本格的な「世界基準」のクラブがお目見えしようとしている。
「クラブ」の源流を求めてアメリカ・ボストンを訪ねた。

取材協力・マサ・ニシジマ 写真と文：田中克佳

アメリカのカントリークラブの現在

Myopia Hunt Club



真のクラブライフを育む

—調和する伝統と革新



5



4

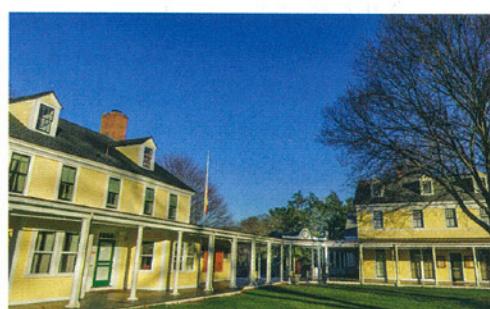


3

1.築240年以上の歴史を持つクラブハウス。かつての大莊園の母屋を改築したもの。2.クラブハウス内のリビングルーム。3.歴代のクラブ代表を写した写真。その多くがハーバード大学の卒業生で、「ファイナルクラブ」と呼ばれる超エリート学生が集まるソーシャルクラブに属していたメンバーだ。Myopiaがいかに上層階級の人々で組織されてきたかがうかがい知れる。4.敷地内には洒落な馬屋が並び、乗馬のレッスンなどもおこなわれている。5.創設当時のコースはほとんど手を加えられていないままで保持されている。



2



1

世界基準の カントリークラブが 日本にも誕生

ゴルフの帝王、ジャック・ニクラスが名誉発起人を務め、ゴルフコースもデザインした世界基準の本格的カントリークラブ『東京クラシッククラブ』が2016年5月14日にオープンします。ダイナースクラブは、そのビジョンに賛同し、共に発展をもたらす原動力になりたいと考えています。詳しくは、東京クラシッククラブ事務局（電話03-6804-1606 http://tokyo-classic.jp）までお問い合わせください。

スにさえ足を踏み入れられない時代がありました。Men's Bar や Men's Diningなどの名前が施設内に残っているのはこうした名残です……。男性の、とりわけ年長者のメンバーは極めて保守的で、新たな施策や改革には消極的だった。しかし、現在では多くのメンバーがファミリーとしてクラブに参加しており、より門戸を開いたクラブ運営が必要だという。「伝統の保持と革新は常に表裏一体です。名門クラブとして時代に即した経営が求められています」。

さらにカントリークラブの発展には、地元コミュニティとの共生が必要だとウエル氏は語る。「乗馬やハンティングには広大な領地が必要です。時に我々の活動はクラブの敷地を越え、周囲の州立公園や農場で及びます。彼らの敷地への立ち入りが許されるのは、普段から良好な関係を築いているからです」。周辺の土地所有者たちを招いて盛大なパーティを主催する一方、クラブ内の施設を地元の高校生に開放するなど、コミュニティとの連携も欠かさない。地元で愛されるクラブとして綿々たる努力を重ねているのだ。メンバーの快適性と同時に周囲との共生にも細心の注意を払う、アメリカ流のクラブライフの神髄が根付いている。

一方、名門クラブであっても時代の趨勢には逆らえず、時には改革を迫られてきたという。「かつては圧倒的に男性優位のクラブで、女性や子供はクラブハウスに入れないかもしれません。価値観を共有できる、高い志のメンバーが求められています」。新たな会員は現メンバー12名の推薦人と、さらに5名からの推薦状が必要だ。その後、理事会の承認を得て全メンバーへ告知され、さらに最終的な決議の後によく参加が認められるという。

Myopia Hunt Club の代表、クリス・ウェル氏が同クラブの運営に関して次のように語ってくれた。「我々のクラブでは会員数を370名と限定しています。カントリークラブとしては小規模ですが、ゴルフやハンティング、馬術など、それぞれの活動で最良のサービスを提供できるよう最善を尽くしています」。施設のメンテナンスや新たなアクティビティの開発、会員同士が交流できる各種イベントの企画など、快適なクラブライフの実現に向けて様々な模索を続けている。クラブ会員の選考も実際に厳格な基準を持つ。「140年の伝統と遺産を継承するのは、所属する会員一人一人にはかなりません。価値観を共有できる、高い志のメンバーが求められています」。新たな会員は現メンバー12名の推薦人と、さらに5名からの推薦状が必要だ。その後、理事会の承認を得て全メンバーへ告知され、さらに最終的な決議の後によく参加が認められるという。

ボストン郊外の「マイオピア・ハントクラブ（Myopia Hunt Club）」は140年の歴史を誇る名門カントリークラブだ。かつて全米オープンが開催されたゴルフコースを持ち、ハンティングやボロ、乗馬など、その活動内容は多岐にわたる（デジタル版シグネチャーで2回にわたり同クラブを紹介しています）。現在、アメリカには1万6000を超えるゴルフコースがあると言われるが、その中心にあるのがこうした複合型アクティビティを提供する「カントリークラブ」だ。所属するメンバーは豊かなクラブライフを享受し、スポーツやイベントを通じて社交を楽しんでいる。一方で会員には高い素養と志が求められ、地域社会への貢献やクラブの伝統の継承など、大きな責務を担っている。

Myopia Hunt Club の代表、クリス・ウェル氏が同クラブの運営に関して次のように語ってくれた。「我々のクラブでは会員数を370名と限定しています。カントリークラブとしては小規模ですが、ゴルフやハンティング、馬術など、それぞれの活動で最良のサービスを提供できるよう最善を尽くしています」。施設のメンテナンスや新たなアクティビティの開発、会員同士が交流できる各種イベントの企画など、快適なクラブライフの実現に向けて様々な模索を続けている。クラブ会員の選考も実際に厳格な基準を持つ。「140年の伝統と遺産を継承するのは、所属する会員一人一人にはかなりません。価値観を共有できる、高い志のメンバーが求められています」。新たな会員は現メンバー12名の推薦人と、さらに5名からの推薦状が必要だ。その後、理事会の承認を得て全メンバーへ告知され、さらに最終的な決議の後によく参加が認められるという。

一方、名門クラブであっても時代の趨勢には逆らえず、時には改革を迫られてきたという。「かつては圧倒的に男性優位のクラブで、女性や子供はクラブハウスに入れないかもしれません。価値観を共有できる、高い志のメンバーが求められています」。新たな会員は現メンバー12名の推薦人と、さらに5名からの推薦状が必要だ。その後、理事会の承認を得て全メンバーへ告知され、さらに最終的な決議の後によく参加が認められるという。